

ゼロ・ウェイストタウン（徳島県上勝町）

徳島県上勝(かみかつ)町では、2003 年に日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言を行い、徹底したリサイクルにより、リサイクル率 80%以上を達成している。ゼロ・ウェイストは、「出てきた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもゴミを生み出さないようにしようという考え方」であり、町一丸となってゴミの削減に取り組んでいる。

経緯

上勝町は、徳島県の中部に位置する、人口 1500 人ほどの小さな町である。以前は林業が主産業で格別特徴のある産物もなかったが、現在は、葉っぱビジネスとして有名なたまものや、阿波晩茶、すだちや柚子などの柑橘類、アメゴ等のさまざまな特産品がある。

同町は、もともと野焼きでゴミ処理をしていたが、廃棄物処理法の改正に伴い、1998 年に小型焼却炉を 2 基導入した。しかし、ゴミの焼却後の灰の処分に困り、焼却するゴミの量を極力削減するために、リサイクル利用可能なゴミとその引取先の検討・探索を行い、それに応じて分別を進めた結果、1998 年末には、ゴミの分別は 25 種類まで増えた。そのような取り組みを進める中、2001 年には、小型焼却炉のうち 1 基から、規制を超えるダイオキシンが検出され、これを機に、焼却炉閉鎖が決定された。これを聞きつけたアメリカ化学者のポール・コネット博士が町を訪れ、同氏の講演で「ゼロ・ウェイスト」の概念を知ったことから、2003 年、日本の自治体として初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行なった。



日比ヶ谷の野焼き場（1990 年代）



ポール・コネット博士の講演会
(写真提供:上勝町)

実施内容

焼却・埋め立てゴミをできる限り減らして、資源の有効利用や環境保全をはかり、合わせて、処理にかかるコストを最小限にするために、13 種類 45 分別式でのゴミの回収を行なっている（2016 年より）。

(ゴミステーション以外での再利用等)	①まだ使えるもの→くるくるショップ（後述）へ
	②生ゴミ→コンポスト、電動生ゴミ処理機、バクテリア de キューロ、大型電動生ゴミ処理機のいずれかで、それぞれの家庭でリサイクル
リサイクル可、収入になる資源	③金属類
	④紙類
	⑤布類
	⑥バイオマス類
リサイクル可、事業者が処理費のほとんどを負担する資源	⑦プラスチック類
	⑧瓶類
リサイクル可、処理に費用がかかる資源	⑨危険物（ガラス、電池、電球、ライター、廃バッテリー等）
	⑩粗大ゴミ
リサイクル不可、処理に費用がかかるゴミ	⑪燃やさなければならぬもの（生理用品、オムツ、ペットシート等）
	⑫埋めなければならぬもの
リサイクル可、住民が処理費を負担する資源	⑬処理費用がかかるもの（廃タイヤ、特定家電等）

この他にも、社会貢献活動による回収もあり、例えば、上勝中学校がベルマーク運動のためインクカートリッジの回収を行っていたり、株式会社花王とテラサイクルが共同で、シャンプーや洗剤類のつめかえパックの回収を行い、「おかえりブロック」として再生させる取り組みを実施していたりする。

ゴミを焼却すると、その後回収できる資源は金属のみになってしまうため、焼却前に資源を回収することを徹底している。また、再利用を容易にし、引き取り価格も高めるため、素材別の回収を促進している。なお、ゴミステーションには、常駐のスタッフがおり、分別をサポートしてくれる。

ゴミ収集車はなく、住民が自分で、ゴミステーション（ゴミ収集所）までゴミを運び、分別する。一番遠い集落だと、車で片道 20 分ほどかかるが、ゴミス

テーションが年中無休のため、自分が都合の良い時にゴミを捨てられるというメリットもある。同町が行なったアンケートによると、7~14日間ごとにゴミ捨てに行き、家では5~10分別に分けているという家庭が多いそうだ。高齢や車を持っていない等の理由で、ゴミを自分で持ち込めない住民向けには、無料で奇数月に家まで回収に来てくれる福祉サービスもある。高齢者の方の利用が多いため、そもそもゴミの量が少なく、何度かヒアリングを行なったが、2ヶ月に1回で十分という利用者が多いそうである。町民へのインタビューを見ると、正直面倒だとは思いながらも、できる範囲でゴミを減らし、楽しみながらゼロ・ウェイストを実践している姿が見て取れる。また、2003年から20年近く分別を続けてきて、「慣れればなんてことない」という声や、「近所の人が見ているからちゃんと分別しなきゃと思う」という声も聞かれ、そういった町内の雰囲気も分別を促進しているのではないかと思われる。

リユースに関する興味深い取り組みとして、リユースショップ「くるくるショップ」とリメイクショップ「くるくる工房」がある。前者は、ゴミステーションに併設されており、まだ使えるが要らないものを自由に置いていき、それを必要とする人が自由に持って帰ることができるスペースである。後者は、地域の高齢者たちが、使えなくなったもの（着物等）の生地を、昔ながらの技術を用いてカバンや洋服等にリメイクし、販売するショップである。また、RISE & WIN Brewing Co.では、ゴミステーションに捨てられていた建具や家具を再利用した室内外の装飾、廃棄対象の柚子皮を香りづけにつかったクラフトビール製造や、クラフトビールを作る過程でできた麦芽粕でつくったお菓子やグラノーラ他日用品の量り売り等、3Rを徹底した取り組みを行なっている。

住民の協力を得るための工夫として、資源分別ガイドブックと、ちりつもキャンペーンが挙げられる。資源分別ガイドブックは、分別の種類が写真付きの例でわかりやすくまとまっているだけでなく、何にリサイクルされるのかまで記載されている。また、巻末には、ゼロ・ウェイストがなぜ必要なのかや、上勝町の宣言やゴミのデータ、資源の売却益とゴミ処理費用等も掲載されており、住民のゼロ・ウェイストへの理解を促進していると思われる。また、ちりつもポイントキャンペーンでは、資源の分別やマイバッグ持参、量り売りでの商品購入でポイントをためることができ、たまったポイントは、環境に配慮した商

品との交換に使える。また、月に一度、町内商品券が抽選で 10 名にプレゼントされる。

この他にも、協力店による量り売りの実施やゼロ・ウェイストを体験できるプログラムの提供等、町の事業所とも連携して活動を行なっている。同町の取り組みとして、株式会社いろどりの「葉っぱビジネス」が同じく有名であるが、同社では、杉の間伐材をつかい、自然に還る「木の布」の生産も行なっており、商品のパッケージにもプラスチックを使用しないなど、ゼロ・ウェイストに積極的に取り組んでいる。



ゼロ・ウェイストセンター



ゴミステーション



くるくるショップ



RISE & WIN Brewing Co.

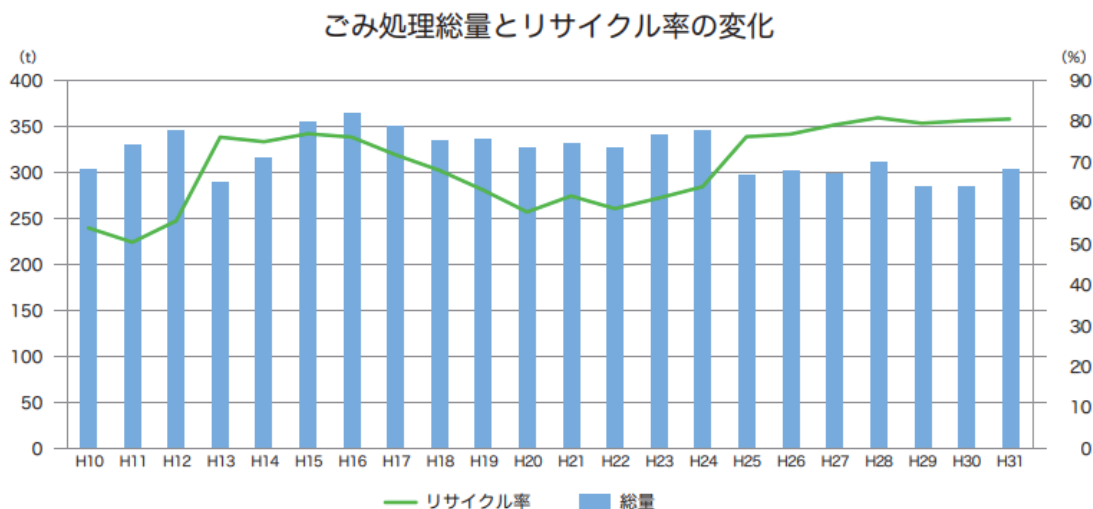


量り売り

(写真提供:上勝町)

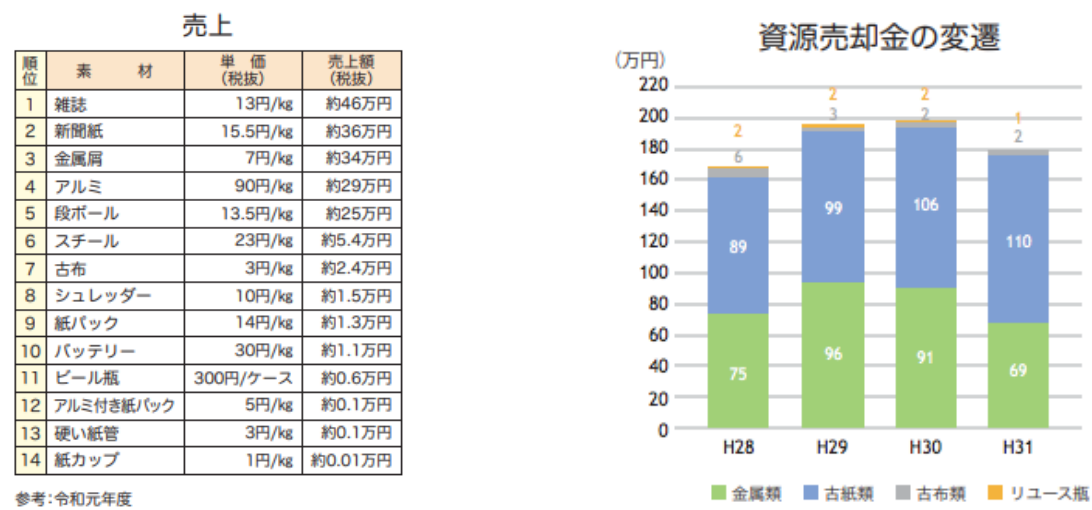
実績

2003年に、日本で初めて「ゼロ・ウェイスト宣言」を行った。そして、その13年後、2016年には、リサイクル率が初の80%台を達成した。このリサイクル率は、全国で2番目に高いものである。ちなみに、2019年度の全国平均のリサイクル率は19.6%であった。また、環境省の統計によると、全国の1人1日当たりのゴミ排出量は918グラム(2019年度)だが、上勝町では約550グラムであり(2019年のゴミ総排出量約300トン・人口約1500人)、ゴミの排出量自体もかなり少ないことがわかる。なお、下のグラフからも見れるように、多少の変動はあるものの、ゴミの総量の減少傾向も見られる。



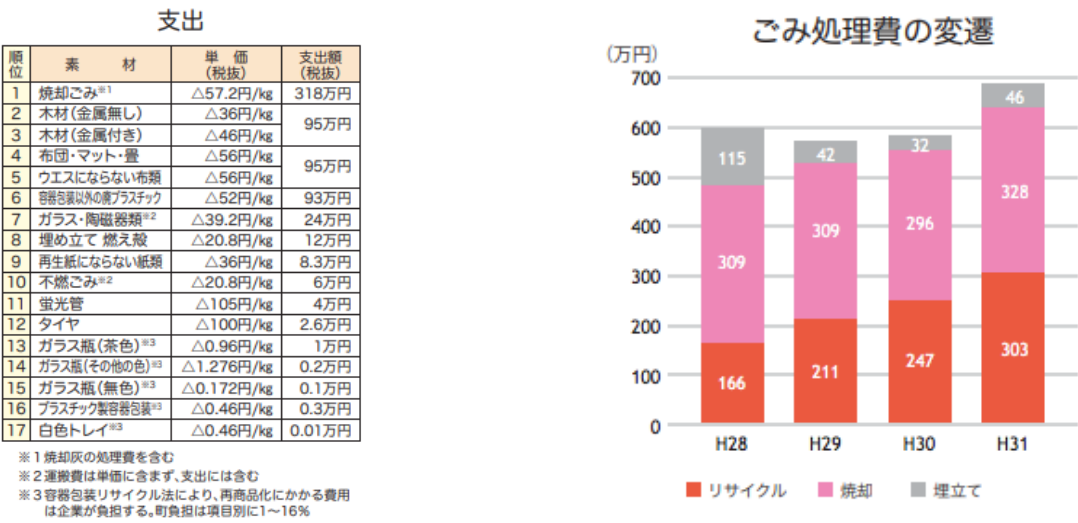
(令和2年度版資源分別ガイドブックより)

また、2019 年の資源の売却益は約 180 万円となり、それ以前の数年も、200 万円弱で推移している。紙類や金属が高く買い取られるようである。



(令和 2 年度版資源分別ガイドブックより)

2019 年のゴミ処理費用は、約 660 万円であり、それ以前の数年も、600 万円前後で推移している。現在リサイクルしている分を、リサイクルをせずに焼却処分すると、処理費用が約 2.5 倍高くなる計算だそうである。



(令和 2 年度版資源分別ガイドブックより)

感想

ゴミの焼却処分は、CO2 や有害なガス発生等の環境問題、さらには埋め立て地の問題などを引き起こし、また、資源の無駄遣いにもなっている。そのため、

なるべく焼却処分を避け、3R を徹底している上勝町の活動は、これからの持続可能な社会形成においても、重要な先駆例となると思う。また、ポイントキャンペーンの商品に、日本ではまだ普及し始めたばかりの月経カップがあったのには正直驚いた。3R を徹底して獲得したポイントの交換で、さらにゴミを減らす、という徹底したゴミ削減の仕組みが素晴らしいと思う（一般的な生理用品の主な原材料はプラスチックであり、衛生面から焼却処分や埋め立てが必要となることがほとんどだが、国連のデータによると、日本では、1 年間で 5 千 4 百万トンほどの廃棄がでている。繰り返し使える月経カップ等を選択すれば、その分ゴミを減らすことができる）。なお、この活動は住民参加型ではあるが、積極的な行政の取り組みによって成功している面が大きいように感じた。

日本の市町村で、ゼロ・ウェイスト宣言をしているのはまだ 5 つしかないそうだが、この成功例を広めていけば、自分たちもやりたいという自治体が増えるのではないだろうか。新たなゼロ・ウェイスト宣言の柱の一つは、「ゼロ・ウェイストや環境問題について学べる仕組みをつくり、新しい時代のリーダーを輩出します。」となっているので、活動の広がりにも期待したい。

(参考資料)

- ・ ZERO WASTE TOWN Kamikatsu

<https://zwtk.jp/>

- ・ 令和 2 年度版上勝町資源分別ガイドブック

http://www.kamikatsu.jp/docs/2017040700010/file_contents/R2betsugidebook.pdf

- ・ RISE & WIN Brewing Co. 公式ウェブサイト

<https://www.kamikatz.jp/ja/toppage.html>

- ・ 上勝町 公式ウェブサイト

<http://www.kamikatsu.jp/>

- ・ 株式会社いろどり KINOF.

<https://kinof.jp/>

- ・環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和元年度）について」

<https://www.env.go.jp/press/109290.html>

- ・United Nations, 2011. ENVIRONMENTAL INDICATORS Municipal waste collection

<https://unstats.un.org/unsd/environment/municipalwaste.htm>